

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協ニュース

2025.7月
通巻 第616号

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

6月26日開催の令和7年度通常総会並びに意見交換会には、皆様お忙しいなか、多数ご出席をいただきまして誠にありがとうございました。お陰様をもちまして無事に終えることができました。厚く御礼申し上げます。

令和7年度 通常総会を開催 定款の改正など3議案を審議・承認



総会の冒頭、あいさつする和田新也会長

日造協は6月26日(木)、東京都千代田区半蔵門のホテルグランドアーク半蔵門で、令和7年度通常総会を開催した。総会では議事に先立ち、国土交通省からの情報提供をはじめ、各種表彰(2面)を行った。議事では、令和6年度決算報告、役員の補欠選任、定款の改正の3議案を審議・承認。役員では、大嶋聰氏、藤吉信之氏の理事退任に伴い、伊藤康行氏、小川巧氏を理事に選任。定款は副会長の定員を3名以内から5名以内に改正。また、総会途中で行った臨時理事会で、伊藤康行氏を専務理事に互選した。総会ではそのほか、令和6年度事業報告、令和7年度事業計画、収支予算の報告と活動報告事項として、委員会のトピックとなる活動を紹介した。

総会は冒頭、和田新也会長のあいさつ(別掲)に次いで、片山壮二国土交通省都市局公園緑地・景観課長からご祝辞とともに、「公園緑地行政を巡る最近の話題」として情報提供をいただいた。



片山課長は、
片山壮二課長
2027年国際園芸博覧会に向けた取り組みなど、令和7年度当初予算のポイントから、昨年5月の改正都市緑地法、倒木・落枝事故等に関する調査結果の概要などをについて概説した。

その後、造園建設功労賞、業績表彰、勤続精励表彰として、54名の方々に表彰状を授与した。(2面参照)

議事は3議案を承認、3事項の報告のほか、委員会の活動報告事項として、2つのトピックを紹介。

技術委員会の伊藤幸男委員長、荻野淳司安全部会長は、造園工事の樹上での安全作業について、2019年の法令改正で墜落制止器具の使用が義務付けられたが、樹上での作業に見合ったものではなかった。一方で、事業者は労働者の安全



伊藤幸男委員長

荻野淳司部会長



田丸敬三委員長



酒井一江部会長

本号の主な内容

- 2面 協会表彰 54名を讃える 受賞者一覧
意見交換会を盛大に開催 多数のご来賓、会員が参加し交流深める
- 3面 「優良緑地確保計画認定制度」(TSUNAG) がもたらすものーその意義と課題ー
千葉大学大学院園芸学研究院教授 柳井重人先生にご講演いただく
- 4面 【ふるさと自慢】 愛らしさたぬきと絶品しらすに出会う旅
徳島県支部 田川文代(南海造園土木(株))

【緑滴】 今も残る知らないことが知れる場所
静岡県支部 山田 明音(天龍造園建設(株))

一般社団法人 日本造園建設業協会 会長 和田 新也



業界の持続的発展を実現するために 「みどりの価値」を社会に広く発信

現在の造園建設業界は、持続可能な社会の実現に向けて、都市公園や緑地の整備・保全、災害対策、人材育成、働き方改革といった多岐にわたる重要な課題に直面しております。

これらの課題に対する日造協の取り組みについては、本日の議事にて事業報告および事業計画として皆様にお伝えいたします。

さらに、「GREEN × EXPO2027(国際園芸博覧会)」は開幕まで2年を切りました。当協会としても特別委員会を設置し、支援体制を整えて取り組んでいるところです。

昨年、改正都市緑地法に基づく「優良緑地確保計画認定制度(TSUNAG)」が創設され、民間投資による良質な緑地整備の促進が期待されております。

本制度の創設に大きく貢献された、千葉大学大学院の柳井先生には、この後の講演をお願いしております。皆様にとりましても有意義な機会となること存じます。

このような環境の変化に的確に対応し、業界の持続的発展を実現するためには、協会員一丸となって「みどりの

価値」を社会に広く発信し続けることが求められます。

そのためにも、当協会では会員の拡充に努めており、令和6年度には新たに10社の正会員をお迎えすることができました。これもひとえに、各総支部・支部はじめ関係の皆様のご尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

◆
本日は、定款の改正をはじめ令和6年度決算報告、役員選任の審議、令和6年度事業報告、令和7年度事業計画など、重要な議題を予定しています。

なお、総会に先立ちまして、造園建設業界の発展に多大なるご功績を残された54名の皆様を表彰させていただきます。

受賞される皆様には、これまでのご労苦とご功績に対し、深く敬意を表しますとともに、今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。

◆
最後に、本日の総会が円滑に運ばれますようご協力をお願いするとともに、会員の皆様のご健勝とご繁栄を祈念申し上げ、開会に当たってのごあいさつといたします。

(通常総会会長あいさつより抜粋)

中嶋和敏総支部長 伊藤康行専務理事
製品やサービスの紹介動画を放映した。

総会再開後は、理事で互選した伊藤康行専務理事を紹介、閉会となった。

また、当日は午後5時から、「優良緑地確保計画認定制度(TSUNAG)」がもたらすものーその意義と課題ーと題して、民間投資による良質な都市緑地の確保に向けた評価の基準に関する有識者会議座長を務めた柳井重人千葉大学大学院園芸学研究院教授からご講演をいただいた。(3面参照)

さらに、午後6時からは会場を移して、意見交換会を行った。(2面参照)

人事異動

国土交通省都市局関係 (7月1日付)

辞職=内田欽也(都市局長)

都市局長=中田裕人(大臣官房土地政策審議官)

内閣官房出向=鎌原宜文(大臣官房審議官)

官(都市生活環境・国際園芸博覧会)
大臣官房審議官(都市生活環境・国際園芸博覧会)=廃止
大臣官房付・即日辞職=井村久行(四国地方整備局建政部長)
※国際園芸博覧会担当=高橋正史(大臣官房審議官(都市))

協会表彰 54 名を讃える

令和 7 年度の協会表彰は、造園建設功労賞 14 名、業績表彰 30 名、勤続精励表彰 10 名の 54 名の方々が受賞し、和田会長より表彰状と記念品が手渡された。

造園建設功労賞

総支部	支部	氏名	年齢	所属
北海道	北海道	四宮 繁	55	(株)四宮造園
東北	山形	小川行雄	77	(株)小川緑化土木
関東・甲信	埼玉	森川昌紀	59	東洋ランテック(株)
〃	千葉	佐藤善一	64	千葉造園土木(株)
〃	山梨	仲村清輝	62	(株)仲村造園
北陸	新潟	近陽一郎	59	(株)新潟造園土木
中部	静岡	中野孝三	63	(株)愛樹園

総支部	支部	氏名	年齢	所属
近畿	福井	塙谷浩一	61	(株)共和庭園
〃	大阪	當内 匠	57	(株)庭樹園
四国	高知	西原厚博	52	(株)庭園センター
九州	熊本	吉村昌洋	63	(株)皆楽園
〃	大分	飯倉秀文	52	(株)栗木精華園
沖縄	沖縄	赤嶺勇助	78	(有)みね造園
本部	愛媛	高須賀盛満	59	高須賀緑地建設(株)



勤続精励表彰

総支部	支部	氏名	年齢	所属
関東・甲信	神奈川	二本柳昌春	52	(株)田野井造園(株)
北陸	石川	出口 誠	64	(株)庭芸社
近畿	京都	柳沼孝尚	63	(株)植芳造園
〃	大阪	山本康裕	60	(株)昭和造園土木
〃	滋賀	山添智彦	51	(株)中西宝山園(株)

総支部	支部	氏名	年齢	所属
中国	岡山	日原史貴	41	瀬戸内造園(株)
四国	徳島	吉村一郎	55	(有)稻富造園
九州	福岡	熊谷芳浩	54	(株)西鉄グリーン土木
〃	熊本	浦川新司	43	(株)東武園緑化
〃	鹿児島	永井興平	48	(株)桂造園

(14 名) (30 名)

総支部	支部	氏名	年齢	所属
関東・甲信	長野	奥原正次	60	(株)奥原造園
北陸	富山	橋本匡史	51	(株)富田園
中部	愛知	加納一弘	71	(株)加納造園
〃	三重	川崎基晴	45	(株)カワサキグリーン
近畿	兵庫	石井秀樹	54	(株)石井造園土木(株)
〃	奈良	小柳和也	50	(株)郡山共同園芸
〃	和歌山	岡崎佳史	48	(株)松原造園土木
中国	山口	森 和義	72	(株)森芳楽園
〃	岡山	難波岳昌	49	(株)菱川グリーン
四国	愛媛	二宮 淳	51	(有)日進緑地
九州	福岡	栗山和道	58	(株)フクユー緑地
〃	長崎	奥野芳春	59	(株)八江グリーンポート
〃	大分	加藤 稔	51	(株)ハヤシグリーンテクノ
〃	鹿児島	関山哲朗	59	(株)青楓緑化
沖縄	沖縄	金城健太郎	45	(株)金城グリーン



意見交換会 180 人が参加

多くのご来賓の方々、会員で交流深める



意見交換会のようす

6月 26 日の令和 7 年度通常総会終了後は、意見交換会を開催し、多数のご来賓の方々をはじめ、会員ら約 180 名が参加し盛会となった。



和田新也会長



新理事の小川巧氏(左)、伊藤康行氏(右)(中央は司会を務めた広報部会の前杉氏)

交流会は冒頭、和田新也会長があいさつ。新理事の伊藤康行氏と小川巧氏を紹介した。

ご来賓のごあいさつは、多数ご参加いたいただいたご来賓の方々を代表し、国家公安委員会委員長の坂井学衆議院議員、自由民主党国土強靭化推進本部本部長、都市公園緑地等整備促進議員連盟会長の佐藤信秋参議院議員、都市公園緑地等整備促進議員連盟副会長の田中和徳衆議院議員、けんざか茂範自由民主党参議院比例区支部長(建設産業)代理の奥村康博後援会副代表、片山壮二国土交通省都市局公園緑地・景観課長があいさつ。

坂井氏は、花博の開催地である横浜が地元で、初代の 2027 横浜国際園芸博覽会(花博)推進特命委員長として、国交



坂井 学 氏

佐藤 信秋 氏

田中 和徳 氏

片山 壮二課長

省、業界の皆様と花博の準備に取り組んできた。花博においては、皆さまの技術を存分に発揮していただきたい。

佐藤氏は、公園緑地は社会に不可欠で防災においても重要。今後も皆さんのご活躍に期待している。

田中氏は、外国に多くの日本庭園があるが管理が大切。予算や制度の政治、行政の対応とともに皆さんのが求められている。

片山氏は、日造協の活動は、毎月「日造協ニュース」を拝読させていただき、皆さんの活躍ぶりを拝見している。花博の開催まで 630 日。花や緑にとどまらず、環境問題にもつながる重要なものであり、今後ともご協力をお願いしたい。

乾杯に当たっては、涌井史郎(公社)2027 年国際園芸博覽会協会 GREEN × EXPO ラボのチアパーソンは、ラボは整備の前の調査研究を行う役割を担っている。花博は日造協の多大な貢献があつて現在に至っている。現在、緑の風が吹いており、その一つがグリーンインフラ



田丸 敬三副会長

で、国交省の施策の中心になろうとしており、都市環境課も新設された。環境省でも生物多様性のみならず、地域の緑をどう保全していくかに取り組み、経済産業省も企業のガバナンスとしてどれだけ自然に配慮した活動を行っているかの明示を求めるようになった。こうした状況の中、日造協の果たす役割はますます大きくなっています。これからますますの発展をと述べ、乾杯を発声、意見交換の場となった。

意見交換会は、田丸敬三副会長が中締めを行い、盛会のうち散会した。



ブレスパイプとは

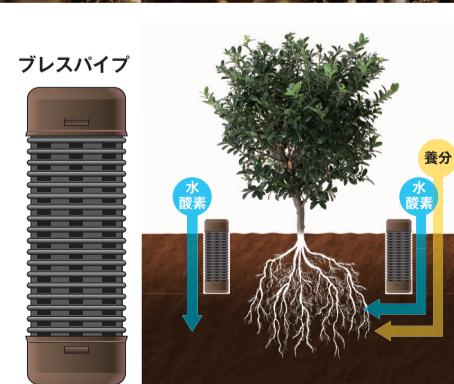
ブレスパイプは土中に設置することで、根の水分、酸素、養分の吸収が改善し、根や地上部の健全な生育が可能になります。

実験データからも、ブレスパイプが根の伸長を促進する事がわかり、さらに樹木地上部の生育も促進させます。

樹木の枯れ防止

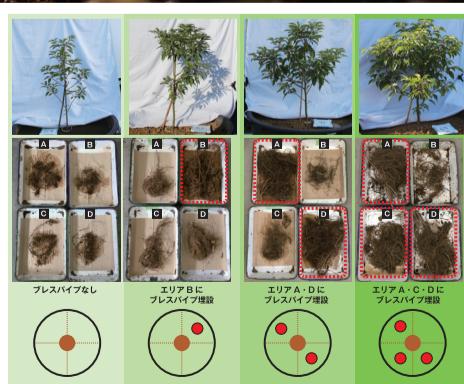
樹勢回復

成長促進



樹木医が開発した筒型土壤改良材 特許第6656665号

takagi



ブレスパイプの効果

樹木を中心に土壌を 4 つのエリアに分け、ブレスパイプを 1~3 本埋設し、根の成長の違いを比較。ブレスパイプを埋設したエリアでは、ブレスパイプに向かって多くの根が伸長。また、ブレスパイプを多く設置したポットの根は全く設置していないポットよりも約 5 倍根量が増加。

株式会社タカギ

お問い合わせ

w-mizuyari@takagi.co.jp

講演会

「優良緑地確保計画認定制度」(TSUNAG) がもたらすもの ーその意義と課題ー

千葉大学大学院園芸学研究院教授 柳井重人先生にご講演いただく

国土交通省の「優良緑地確保計画認定制度」において、柳井教授は「民間投資による良質な都市緑地の確保に向けた評価の基準に関する有識者会議」の座長として、制度創設の中心的な役割を担われた。講演では、制度の背景、目的、評価基準、緑地の社会的・経済的価値について説明。制度は単に緑地を評価するだけでなく、緑と人、緑と都市、緑と社会、そして未来へつなぐコンセプトを持ち、気候変動対策、生物多様性保全、Well-being向上、地域価値の構築などの多様な観点から企業の緑地を評価し認定する。また、敷地内だけでなく地域全体の緑のネットワーク形成を促進する点や緑地の「マネジメント」に重点を置いていることが特徴とした。さらに、ESG投資の拡大と緑地の価値の関連性について、企業の緑地への投資が経済的リターンにもつながり、認証を受けることで企業は自らの取り組みを見直す機会を得、その価値を可視化し、ステークホルダーからの信頼を獲得できる。造園業界においては、認証制度の普及、申請・認証取得に関わるコンサルが直接的な業務になるが、コンサルと言つても運営管理が重要で、施工管理技術が不可欠であることから、皆さんの活躍の場が広がる制度ともいえると述べた。

TSUNAG の概要

TSUNAG は都市緑地法に基づき、国土交通大臣が緑の量と質の観点から民間事業者等の取り組みを評価・認定する制度。「緑をつなぐ、緑と人をつなぐ、緑と都市をつなぐ、緑と社会をつなぐ、未来へつなぐ」というコンセプトで、「To Secure Urban Nature And Green space」から TUNAG としている。

TSUNAGとは



【地域の価値向上】

風の道の形成、生態系ネットワークの形成、地域コミュニティの形成 等

【気候変動対策】

温室効果ガス吸収・固定、暑熱対策、浸水被害対策、資源循環 等

【生物多様性の確保】

水資源の保全、多様な生息・生育環境の確保、周辺環境との調和、環境教育 等

【Well-beingの向上】

安全・安心な空間の形成、心身の健康の増進、にぎわいの創出、良好な景観の形成 等

【先進的取組】

【マネジメント・ガバナンス】

適切な事業の実施、情報開示 等

【土地・地域特性の把握・反映】

土地・地域特性、法令・行政計画 等

【緑地の量】

緑地割合、緑地面積 等

TSUNAG HP を元に講師作成
<https://tsunag-mlit.com/tsunag/abstraction>

TSUNAG の評価項目と特徴

TSUNAG は、気候変動、生物多様性、ウェルビーイング、地域の価値向上、マネジメントとガバナンス、土地・地域特性の反映などを評価し、対象事業は新たに緑地を創出・管理する事業だけでなく、既存の緑地の質の向上や確保も含まれる。

また、単一の敷地だけでなく、隣接する外部や 250m 以内の場所も一体の事業として認める点が特徴。認定はトリプル A (AAA) からシングル A (A) まで 3段階で、マネジメントを重視している。

特に地域の価値向上は、風の道の形成、生態系ネットワークの形成、地域コミュニティの形成など、敷地外への波及効果を重視。マネジメント、ガバナンスと土地、地域特性の把握、反映は必須項目で、造園の発想が生かされている。

日本の都市緑地は、OECD のデータをみても、充実度が低く、気候変動・生物

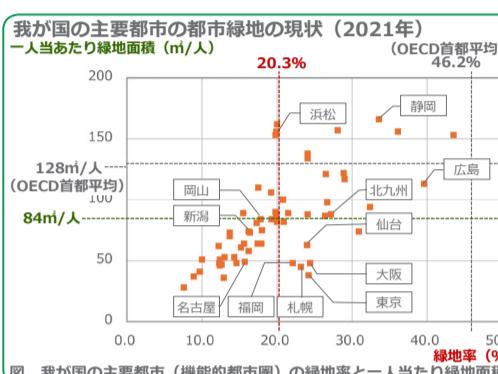


図 我が国的主要都市（機能的都市圏）の緑地率と一人当たり緑地面積*

OECD Regions and Cities, City statistics (database), https://stats.oecd.org/Index.aspx?DataSetCode=FUA_CITY のデータベースに基づき講師作成



多様性・ウェルビーイング向上が地球規模の課題となっていることも踏まえて、ESG投資のような環境分野への民間投資が進んでいることがなどが TSUNAG 創設の背景にある。

緑地の多面的機能と価値

木陰は熱中症リスクを軽減するだけでなく、滞在の快適性や街のにぎわいにもつながるなど、緑地はネイチャーベースドソリューション（自然を基盤とした解決策）として、複数の課題に同時対応できる特徴がある。

さらに、コミュニティガーデンなど、景観形成だけでなく高齢者の孤立防止や役立ち、緑地の管理自体が環境学習や資源循環などの意味を持っている。

ESG 投資の拡大と企業緑地の価値

企業の環境への取り組みが単なるイメージ向上だけでなく、経済的にも結びつきつつあり、企業はさまざまな緑地に関する活動を行い、敷地内の活動だけでなく地域での取り組みやネットワーク形成なども進んでいる。

オフィスや商業ビルの緑地は、来訪

緑を通じた場所のつながり

一定地域内に存在する多様な都市緑地の連続性を確保することによって、都市緑地の多面的機能を発揮させ、相乗効果をより広い範囲へと波及。

緑と人とのつながり

緑を通じた人々（コミュニティ）のつながり

緑を通じた場所のつながり

- 生物多様性に資するエコロジカルネットワークの形成
- ヒートアイランド現象の緩和と適応に資する風の道の形成
- 災害におけるレジリエンスの向上に資する防災ネットワークの形成
- 優れた景観形成やウォーカブルを基調とした回遊性の向上による観光レクリエーションのネットワーク形成
- 関連する波及効果

地域価値の向上

者や地域住民の気分転換やストレス軽減の場となり、地域への愛着を生み出し、社員やテナントにとって満足度向上や生産性向上につながるだけでなく、企業文化の表現や人材確保、空室リスクの低減、賃料維持などの経済的メリットもある。

緑地の新たな可能性

従来の緑地は、都市公園など公的機関が管理する場所として理解されることが多かったが、民間の緑地も含めた全体で考える必要があり、パーク PFI のように公的空間に民間が入ったり、企業の研究所や保養所、工場などの民間緑地がオープンになったりしている。

これからは「1人当たり都市公園面積」という指標ではなく、「1人当たり都市公園プラス企業緑地を含めたオープンスペース面積」という新しい指標が重要だ。

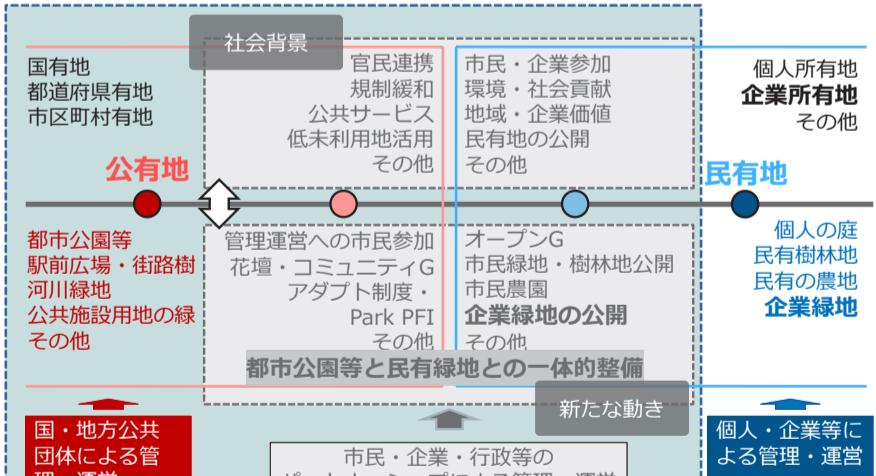
TSUNAG の意義と効果

TSUNAG は、企業が認証を受けるプロセスで自らの取り組みを見直す機会になり、厳格な評価基準と専門性の高い第三者評価によって、企業の緑地への取り組みの価値が可視化され、ステークホルダーからの信頼や支持、ESG投資の呼び込みにつながる。

また、TSUNAG はグローバルスタン

TSUNAGの目指すところ

民間の取組の拡大

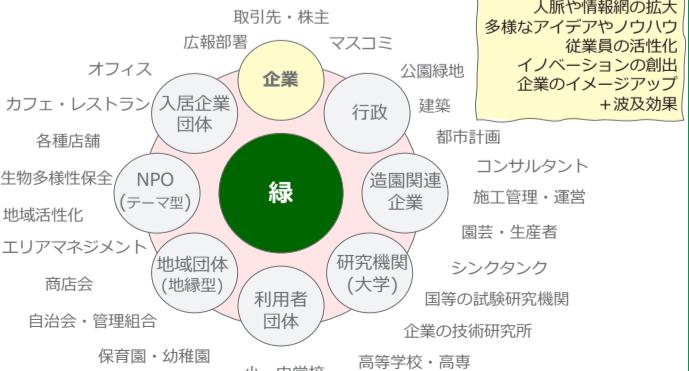


国・地方公共団体による管理・運営

市民・企業・行政等のパートナーシップによる管理・運営

緑を通じた人々（コミュニティ）のつながり

企業の取組の実践的展開



ダードとの連携も考慮され、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）やGRESB（グローバル不動産サステナビリティ・ベンチマーク）などの国際的な評価基準との整合性も図られている。

TSUNAG の地域社会への波及効果

また TSUNAG は、優良事例のベンチマークとしての役割があり、認証に伴う広報普及活動によって他の企業の取り組みを促進するきっかけになる。

さらに、生物多様性地域戦略や緑の基本計画などに盛り込むこともでき、千代田区の生物多様性推進プランには、認証緑地が行政計画の中で生態系ネットワークの一部として位置づけられている。

今後の課題と可能性

今後は、認証制度の普及が課題であり、ESG投資と評価の関係性を強化し、緑地の取り組みのメリットやエビデンスを発注者に理解してもらう必要がある。

また、申請や認証取得に関わる支援・コンサルティングが必要で、これは造園施工業の方々の仕事にもなる。

もう一つ、施工管理技術、利用促進、運営改善、モニタリング技術などのパッケージ化が重要で、TSUNAG の利用申請者用手引きはホームページからダウンロードでき、評価項目の詳細も確認できる。現在、TSUNAG だけなくさまざまな認証評価制度がある。施工業界として、これらも参考にこれからどうしていくのか、どういう目標を持つべきかを改めて考える契機にもなると思うと述べた。

ふる
と自慢
徳島県

愛らしくたぬきと 絶品しらすに出会う旅

西側のSL記念広場は2024年

両親が歴史的建造物が好きで、小さい頃から城巡りをしていました。最初はよくわからないながらも、ただかっこいいなと思って見ていただけでしたが、築城された理由や関わった人物、その城の謂れなどを知っていくと、より楽しめるようになり、気づいたら城巡りが趣味になっていました。

今までに犬山城、彦根城、姫路城、松本城等たくさんの城や城跡を見てきました。

当時の状況を想像ながら見て回ることがおもしろく、感慨深い気持ちにもなります。

その城に行った記念には通行手形や、今は御朱印ならぬ御城印というものもあり、それらを集める楽しみも増えています。

どの城もそれぞれ特徴が違っていて魅力的ですが、お気に入りは彦根城です。

現存十二天守の一つで、築城当時の石垣が間近で観察できたり、天守内の急勾配の階段を実際に感じることができます。

またゆるキャラのひ

天龍造園建設
静岡県支部
山田 明音



事務局の動き

【7月】

- 1(火)・広報活動部会
- 3(木)・運営会議
- ・造園技術フォーラム
- 7(月)・地域リーダーズ会議
- 8(火)・「造園ワークポジショニング作業」説明会
- 9(水)・緑地樹木剪定ハンドブック編集会議
- ・造園・環境緑化産業振興会 運営会議
- 10(木)・グリーンインフラ官民連携プラットフォーム運営委員会
- 11(金)・植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）
- 15(火)・国際花と緑の博覧会記念協会 理事会
- 18(金)・植栽基盤診断士認定委員会
- 24(木)・登録造園基幹技能者講習委員会
- 31(木)・財政基盤強化部会・会員拡大推進部会合同会議

【8月】

- 3(日)・若年者ものづくり競技大会～4(月)
- 5(火)・広報活動部会

委員会等の活動

- ・広報活動部会



金長神社① 金長だぬき郵便局①

たぬきの井戸端会議

SL 広場



に新たに大型複合遊具が設置されました。SLを模した遊具もあり、乗り物好きの4歳児は大興奮で雨上がりにズボンをびしょびしょにしながら楽しんでいました。

SLの展示もあり写真スポットと



たぬき広場

してもおすすめです。

そしてこの時期の小松島といえば「しらす」です。

漁獲量が多く、新鮮なしらすが味わえる地域として知られており、特産の釜揚げしらすやちりめんが多く出荷されます。

しらす漁の期間限定、曜日限定で営業



する飲食店もあり、今期もオープンのニュースを目にしたので、今度弁を目当てに出かけたいと思います。

今回立ち寄ったパン屋さんでも、個性豊かなかわいいたぬきに出会いました。

お気に入りのたぬきを探しにぜひ小松島にお越しください。

徳島県支部 田川 文代(南海造園土木(株))



また、印象に残っている城の一つは安土城跡です。

三英傑として有名な織田信長公が築城した城で、石段や屋敷跡が残るのみの城跡ですが、石段の中に石仏や墓石が使われていて、はじめて見つけたときは衝撃的でした。まさに信長公しさを感じたところがありました。

近年は老朽化や雨で石垣が崩れたりして、今まで入れたところが立入禁止となる場所が増えているそうです。

今の状態で残っているうちに、まだ行ったことのない現存十二天守を巡りたいなと思います。

またゆるキャラのひ

新入会員のご紹介

社名 / 住所 ☎ 代表者 / FAX

きほくりょくちけんせつ
(株)紀北緑地建設 前田 明彦
和歌山県橋本市高野口町名倉 206-2
☎ 0736-42-0028 FAX 0736-42-0038



社名 / 住所 ☎ 代表者 / FAX

ちくうけんせつ
(株)竹葉建設 大橋 光明
栃木県下野市柴 1087
☎ 0285-44-7688 FAX 0285-44-5883



ようこそ日造協へ！

日造協賛助会員の紹介 管清工業(株) 全国の下水道管など管の清掃・調査・補修を担う



弊社は1962年から約60余年にわたり、一貫して下水道及びその上流である排水「管」(パイプ)の維持・管理を行ってまいりました。現在では、およそ50万kmにも及ぶ全国の下水道管及び排水管の清掃・調査・補修を一貫して行う事業を展開しており、全国に事業所ネットワーク網を持ち、下水道・排水施設の機能を常に安定した状態に保ち、安全で快適な生活環境を支えています。弊社の業務は造園との関わりが薄いように見えますが、全国の都市公園等「緑」関係施設内の排水管の清掃・調査・補修を担っております。また、私達が使用した水は下水道システムで汚水処理を行い、きれいな水として川や海に流すことで自然環境を守るとともに、下水道システムに雨水を集めて川や海に流すことで街を浸水から守る役目も果たしておりますが、弊社も、システムのうち管の維持管理を担うことで日造協

が掲げている地球環境の保全に貢献しております。今後は、下水道等の異常を予め食い止めるなどで自然環境への影響を抑えるため、予防保全的維持管理を行うことが大切です。

私たちの暮らしに欠かせないインフラである下水道などの管の維持管理を通じて、社会に頼られる存在として歩んでまいります。

管清工業株式会社 (KANSEI Company)
〒158-0098 東京都世田谷区上用賀1-7-3
<https://www.kansei-pipe.co.jp/>
問合せ : TEL03-3709-5151

6/9 2025年度の新規・更新計画、基幹技能者データ、試験問題について審議

● 2027年国際園芸博覧会特別委員会

6/4-5 AIPH 視察団の横浜視察対応

編集後記 今年は全国的に平年よりも梅雨明けが早く、暑い日が長く続きそうですね。6月からは、職場における熱中症対策の義務化も始まりました。今年の夏を無事に乗り越えられるか不安ですが、まずはしっかりと熱中症予防に取り組みたいと思います。



建設現場で働く労働者のための国の中退職金制度です。

詳しい情報は
こちら!

Q 建退共

<https://www.kentaikyo.taisyokukin.go.jp>

掛金は損金級!
新規加入で一部免除

電子申請方式なら
手続きもカンタン!

一人親方も加入できる!

